

気持ちの察し方学んで

亀岡・曾我部小 大学教員が模擬授業



怒りや喜びの感情を抱いた時に出る動作や言葉について真剣に考える児童たち（亀岡市曾我部町・曾我部小）

議論し、「怒りの時はにぎりこぶしや舌打ち」「がっかりした時は涙が出る」などと発表した。児童の1人は「人によって分かりにくい特徴があると気づいた。気を付けたい」と感想を話していた。

同小教員のほか、三重、岐阜県の県教委職員ら約40人が児童の様子をつぶさに観察していた。（小池直弘）

いじめや不登校の防止に向けた模擬授業が22日、亀岡市曾我部町の曾我部小であった。子どもの心身の健康を守る「予防教育」に取り組む徳島県の鳴門教育大予防教育科学センター教員の授業を、教職員らが見学した。

同センターは、他人の気持ちに気づく力を育てる「感情の理解と対処の育成」、好ましい人間関係をつくる言

葉や行動を学ぶ「ソーシャルスキルの育成」など4項目を柱とした授業プログラムを開発している。

6年生を対象に、互いの気持ちの読み取り方をテーマに授業をした。怒り、落胆、喜びの三つの感情の現れ方について、「すぐ分かる特徴」と「注意しないと分からない特徴」を児童に問い掛けた。児童たちは班ごとに